



Mobell Course

Impact Report

はじめに

Mobellグループは、チャリティ団体を運営している英国の通信事業者です。学校給食のための支援、教育への貢献、雇用の創出という包括的な支援を、世界の貧困国で展開するために、多くのチャリティを実施しています。

2020年半ば、Mobellはオンラインコースを、開始しました。対象は主に日本の若い学生の皆様に、Mobellが持つネットワークを通して、チャリティや社会的企業の姿について学べるコースになっています。コースの実施の上でのパートナーとして、アフリカのマラウイのITとリーダーシップの学校である St. John Paul II Leadership & IT Instituteのスタッフが関わっています。

こうした人材・国際的なチャリティ・ビジネスの繋がりから、コースに参加する皆様は、チャリティなどの学びだけではなく、アフリカのスタッフから貧困などの国際課題を学んだり、自らの意見で自分のプロジェクトを考案してMobellスタッフと協働したり、英語での発信の仕方を学んだり、多角面の経験と学びを得ることができます。

Mobellのオンラインコースは、明確な社会的目的を持って運営されております。コースの参加費は全て、マラウイのソーシャルビジネス、共同体開発、学校のための支援、そして子供たちの学校給食支援になります。Mobellのコースは、皆様に教育的価値をご提供するとともに、世界の貧困国にも、教育の向上の機会を提供します。

コース内容



CHARITY & SOCIAL
ENTERPRISE



BUSINESS ENGLISH



LIFE SKILLS



COMMUNITY
DEVELOPMENT



INTERNSHIP
PROJECT

マラウイについて

南東アフリカに位置する内陸国であるマラウイは、約19,00万人の人口を持っています。比較的平和を保ち、政治的にも安定している国ですが、世界の最貧国の一つでもあります。マラウイは現在でも、雇用の不足、食糧の不作などもあり、困難を抱えています。

Mobellコースでは、こうした課題に対して取り組むことを目的として掲げています。St. John Paul II Leadership & IT Instituteとの提携によって、マラウイの講師によるオンライン授業というユニークな内容も含んでいるコース内容になっています。

実際にマラウイ人スタッフが実施する授業は、貧困状態と共同体開発、リーダーシップについて、そして統計とデータ分析についての授業になっており、ビジネス、学生のリサーチや研究発表など、実践的な学びに欠かせない内容になっています。



Malawi, Africa



<https://www.jp2liti.org/>



Foreword

コースのコーディネーター：山田真人からのメッセージ

Mobellコースは、社会的企業、チャリティについて関心の高い人々に対して実施をしているコースになっています。

チャリティは、日本で実施することはとても困難です。
しかし、それは取り組む価値があるものです。
参加者の方には、具体的に行動をしていく方法も、考えていきます。
日本において、そしておそらく世界全体において、
チャリティをどのようにしたら、
効率よく適切な形で、実施ができるのかということも考えます。
こうした能力を磨くためには、批判的な思考も必要となります。

上記のようなスキルを学ぶために、私たちはチャリティだけではなく、
Social Enterpriseというとう項目があり、企業、海外のチャリティ団体、
日本のNPOなど、様々な例から、具体的な実践方法を学んでいきます。

“Charity is challenging
but worth doing.”

Makoto Yamada



マラウイの講師の皆さん

マラウイの皆さんにとって、最初はオンラインでの授業は初体験でした。
マラウイの人たちも同じで、多くの課題にぶつかりました。
そんな中でも、マラウイの講師の皆さんは変化に順応し、
オンライン授業を実施してくれました。

こうした取り組みを通して、Mobellはマラウイでの雇用を促進し、
仕事を活性化させる取り組みも、コースを通して同時に進めています。
さらに、大人だけではなく、教育キャンパス、小学校、高等学校、
学校給食支援のNPOとともに、子供たちの学校給食支援に繋がっています。
1日約15,000人の子供たちに学校給食支援を展開しています。

Changing the Japanese society with the youth

Mobellコースの今後について

今後Mobellは、日本の中学校、高等学校、大学との関係を、特に深めていければと考えています。こうした学校の皆さんの要望に合わせて、コースも進化させていきたいと思っています。

Mobellの事業を信頼して参加頂くことで世界を良くしていくことのパートナーとして、一緒に働いていくことで、自然にコースに参加頂ける方も増やすことができれば幸いです。

Mobellを通じて、チャリティ、社会的企業について考え、実行してくれることを願っています。



Interview with Interns

INTERN 1: Jさん（東京都在住、高校1年生、2021年8月参加）

「コース内ではたくさんの思い出があり、何を話したらいいか選ぶのが大変でしたが、他の参加者との会話や講師とのディスカッションは、とても面白かったです。色々な国籍、背景の人の意見を聞くことができ、とても有意義な時間となりました。」

Jさんは、学校の先生の勧めもあり、オンラインでMobellコースを見つけ、参加してくれました。参加した時は、チャリティは単にお金を寄付するだけの一方通行の行為だと思っていたそうです。しかし、コースの中でチャリティについて学ぶ中で、その方法は色々なものがあることが分かったそうです。

さらに彼女は、チャリティにおいて寄付をするだけでは不十分であることも、同時に学びました。彼女は、インタビューの中で、「マラウイには多くの衣服が寄付されているが、それらの多くが結局は埋立地に回ってしまっています」と、マラウイの現状について話してくれました。彼女は、コースの最後にある最終プレゼンテーションで、現在自分で考えていて、2022年現在には実際に進行中のプロジェクトについても、話してくれました。彼女は現在、特に環境問題について関心を深めていて、コースを通して具体的な実践方法などについても、気づきがあったことを話してくれました。

INTERN 2: Tさん（東京都在住、高校2年生、2021年8月参加）

Mobellコースを受講する前から、Tさんは既にボランティアなどの経験は多くあったそうです。そのため彼女は、コースに登録したきっかけは、さらにその知識を深めることでした。最初は、英語を聞きとったり、話したりするのに、困難も感じたそうです。彼女が学んだ興味深かったことの一つは、スターバックスなどの大企業もチャリティに津繋がりを持っているという点だったそうです。

彼女は、学校で既にやっている活動などを深めたり、新しい取り組みを考えたりするために、最終プレゼンテーションは、学生ができるチャリティ活動についてでした。最後にTさんは、「学生の皆さんに、もっとチャリティについて知ってもらいもっとボランティアという形で関わってもらいたい」とおっしゃっていました。

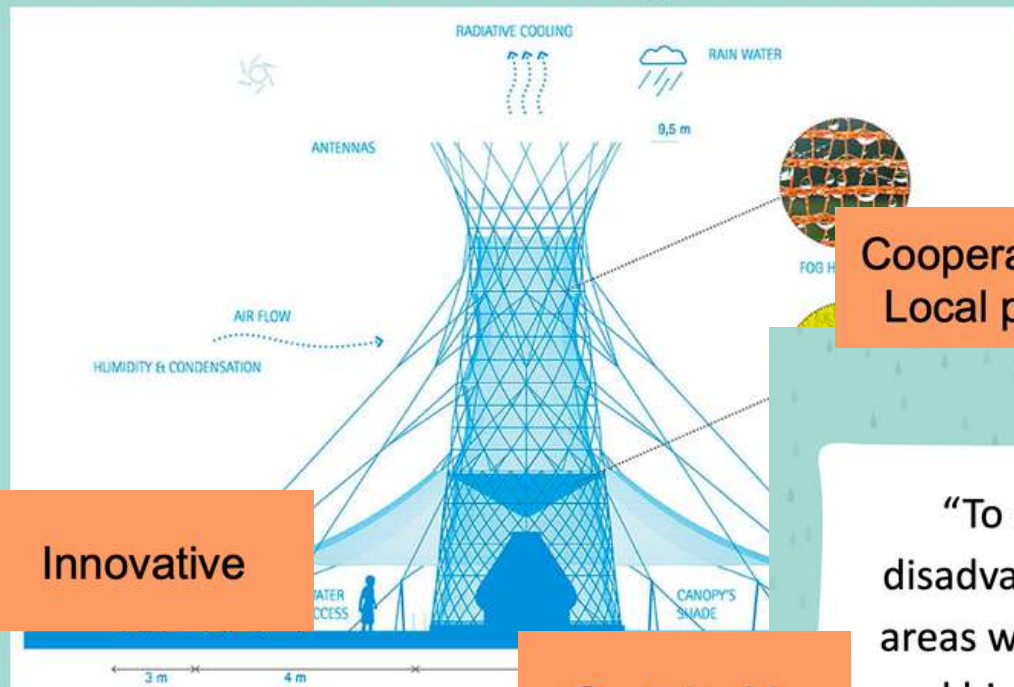
「もっともコースで心に残ったのは、チャリティに関心がある人々に出会えたことです。たくさんの友達ことができました。」



Warka Tower

Presentation by M-san

How does Warka Tower gather water



Cooperate with
Local people

Philosophy

"To serve the basic needs of disadvantaged populations in rural areas with eco-friendly, innovative, and biodegradable infrastructure."

Innovative

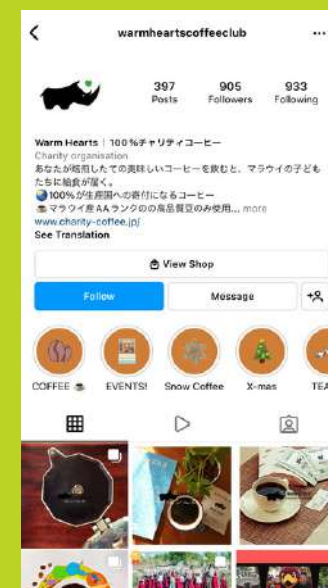
Sustainable

Flyer created by Mさん

Warm Hearts Coffee Club

Instagram

Managed
by Mさん



INTERN 3:Mさん（広島県在住、高校3年生、2021年7月参加）

「Mobellコースは、自分の英語力と、
世界の見方を変えてくれました。」

Mさんは、最初の参加の動機は、大学に入るための実績作り（終了後インターン証明書が提供されるため）と、英語の運用能力の向上でした。

一方で、コースの中で話されている実践的な英語が、学校で教わるものとは違う部分が多い点に驚いたそうです。しかし、講師がMさんが自分の意見を構築した上で発信し、それを具体化するプロセスに関わっていたおかげで、自分からの英語での発信が多くでき、徐々に力がついたとおっしゃっていました。さらに英語を話す力以外に、リサーチやプレゼンテーションなどのスキルも実に着いたと語ってくれました。Mさんは、「TOEFLスコアも、69から79に上がった」と述べていました。

Mさんの最終プレゼンテーションは、マラウイでの水不足を減らすための仕組みについての内容でした。Warka Waterは、大気中の気体から水分を集め、環境に優しく導入でき、コストも低いため、実践的な現地への提案になりました。Mさんは、コース終了後も、Mobell、そしてMobellのチャリティの団体である、NPO法人せいぼ、Warm Hearts Coffe Clubに関わってくれています。コースの宣伝自体にも関わってくれたり、さらにMobellのチャリティ事業のプロモーションにも、創造的に関わってくれております。

INTERN 4: Yさん（東京都在住大学1年生、2021年8月参加）

英語スキルの向上のために、コースに参加したのが、Yさんです。最初は、コースの費用が全額チャリティに使用をされたり、Mobellが会社としてチャリティを継続的に実践していることに、疑問点があったそうです。しかし、コースの中で具体的な事業や背景のストーリーを聞く中で、その姿、ビジネスモデルが分かったそうです。また、講師や日本人のサポートスタッフとの交流、ディスカッションによって、世界への視野も広がったとのこと。マラウイの講師に対しても、とても積極的なコメントを、Yさんはして下さいました。アフリカのマラウイという国について知らない中でも、自分の意見を受け入れてくれて、対等に話すことができることが、楽しかったとおっしゃっていました。Yさんは、IT関連の分野を大学で学んでいる関係で、最終プレゼンテーションでは、Mobellが提携するマラウイの初等教育に、どのようなIT技術を導入し、教育に行かすことができるかについて、非常に具体的な示唆に富む内容を提供してくれました。



「社会の中で実際に活動をしている人々と会話ができました。こうした機会は多くはないために、とても充実した時間になりました。」

INTERN 5: Rさん、高校1年生、2021年8月参加

「私はコースを受講前、チャリティは与えるだけだと思っていましたが、逆にたくさんのご恩恵を得ることにもなることが分かりました。」

学校のボランティア委員会に入っていることもあり、チャリティには興味がありました。従って、先生がこのコースを紹介して下さり、関心がもともとあり、コースを受講したとのこと。

Rさんは、コースの後半からWarm Hearts Coffee Clubという100%の売上げが学校給食に繋がる

オンラインコーヒーサイトに興味を持ち、Mobellの実施する事業に具体的な関心が芽生えたとのことでした。

「大体のチャリティが、売上げの一部を支援に充てるのが普通ですが、MobellグループのWarm Hearts Coffee Clubは、全額を充てているという点が、最初は不思議でしたが、システムを知って納得し、面白いと思いました。」とRさんは語ってくれました。

Rさんは今後、このコーヒー事業について学校でも消化し、同じような支援モデルを参考にして、できることを考えていきたいと述べていらっしゃいました。また、彼女はコースの中で、家族の伝統、ネットワーキングのためなど、チャリティを実施する人には様々な理由があることが分かったと、話してくれました。

INTERN 6:I さん、千葉県在住、高校2年生、2021年8月参加

Iさんの母親が、このコースを紹介した時は、Social Enterpriseという言葉は、全く知らなかったとのことでした。その後、その言葉の意味を調べ、さらにチャリティについての学びもできることを考え、自宅から受けられることも検討した結果、コースに参加することにしました。

また、コースの費用がマラウイの支援に繋がる点もあり、受講を決めたそうです。Iさんは、本当に全ての授業が楽しかったと言ってくれました。

Iさんが最も良かったと言ってくれたのは、

一緒にコースを受講してくれている人との交流でした。

「参加者の方も、チャリティに関心がある方だったので、とても楽しかったです。そしてその関係は今でも続いていて、こうしたネットワーク作りが、Mobellコースの価値を高めてくれる要素でした」と語ってくれました。

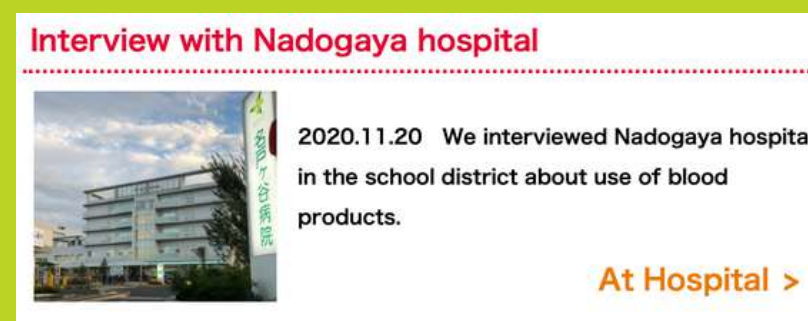
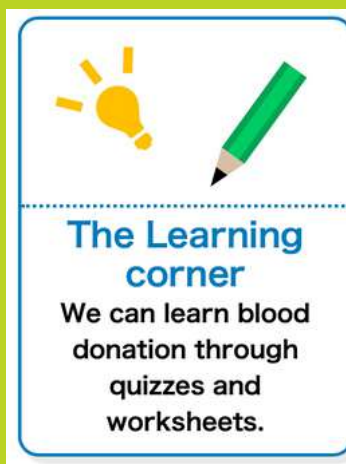
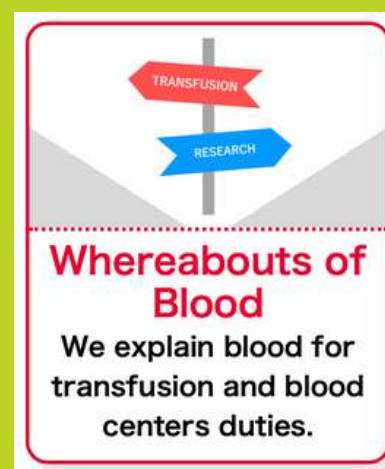
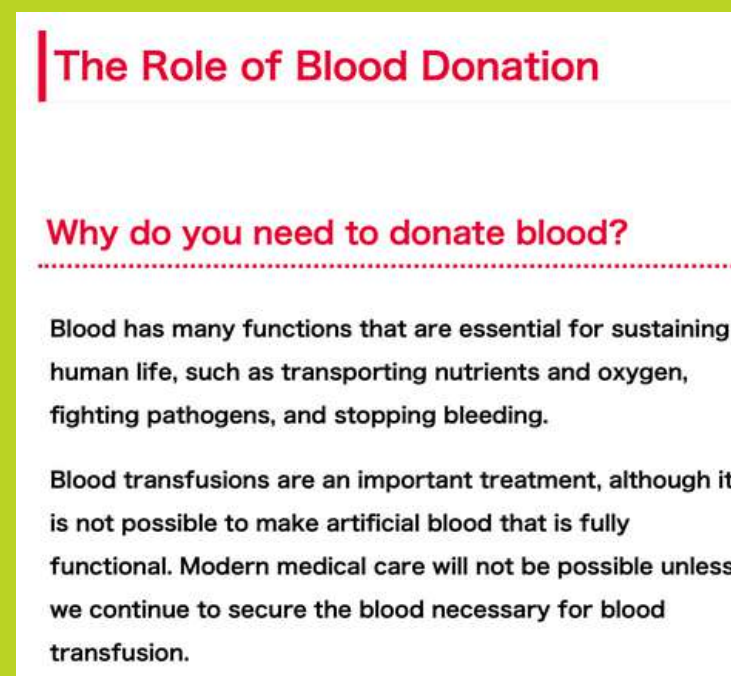
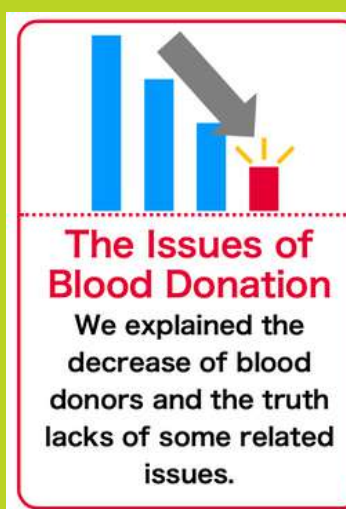
Iさんは、自分で献血を広めるためのウェブサイトを作成するなど、現在でもチャリティや社会貢献の活動を実施しており、Mobellのスタッフも人脈の構築などにおいて、サポートを続けています。

「高校生などの学生でも、寄付の一つの形として献血があることを、皆に知らせたいと考えています」とIさんはおっしゃっていました。

「ライブ授業はとても印象的で、一番いいものを選ぶのはとても難しいくらいでした」

Blood Donation Website

Iさん作成したウェブサイト



<http://goto-kenketsu.jp/home-e.html>



Interview with Malawian Instructors

INSTRUCTOR 1: Eunice Kumwenda

Euniceさんは、St. John Paul II IT & Leadership Instituteの講師で、Mobellコースではビジネス英語と、リーダーシップの授業を担当しています。日本人との授業を重ねる中で、日本には「リーダーシップ」という概念がない中でも、若い人々はリーダーとして成長をしていくことが必要であることが分かってきたとのこと。

Mobellコースを通じて、彼女は日本の参加者が自分の立場に関係なく、それぞれの仕方でリーダーになれることの可能性を分かって欲しいと願っています。

最初は、参加者はシャイで、話したがらないですが、段々マラウイのことに興味を持って質問をしてきたり、自分から話しかけてきたりするようになってくるとのことです。

“生きることは、自分のためだけでなく、他人のために何かをすることでもあります。
きっと皆さんも、
周りの人に何かをしたときに、
幸福感、満足感が
あるはずです”



マラウイのITとリーダーシップ学校である

St. John Paul II Leadership & IT Instituteは、オンライン授業の経験は多少ありましたが、オンライン授業を定期的の実施することは、新しい取り組みでした。

例えば、最初の時期は静かにオンライン授業ができる場所を探すこと自体が困難でした。また、言語の壁の問題で、授業内容も十分に伝わらないこともありました。

一方で、日本人スタッフの尽力もあり、必要な際の翻訳やフォローがあることで、乗り越えることができました。

現在、受講者に対してだけではなく、マラウイの学校にとっても、大きな成長に繋がっていると、Euniceさんは語ってくれました。

その理由は、現在マラウイでもEラーニングのシステムを構築しており、学校の未来にも繋がると、彼女は語っています。

INSTRUCTOR 2: Chancy

Chanceyさんは、コミュニティ開発、貧困課題の授業を担当されています。彼は、このコースの中で参加者が英語で会話をしたり、自分の国と違う場所で起っている課題について触れることができる点で、多くのメリットがあると考えています。また、日本人の皆さんが授業内で積極的に発言をしようという機運があり、とても驚いているとのことでした。最初は、マラウイの中で静かでオンライン授業を継続的に実施できる場所を見つけるのに苦労をしたとのことでした。ネットワークの障害なども経験したそうです。しかし、現在は継続的に授業を実施できていて、マラウイ側の成長も実感できるとおっしゃっています。そのため、将来マラウイの子供たちのためにも、オンラインレッスンができるようになりたいと、おっしゃっています。彼は、現地の生徒にとって、簡単に教育にアクセスできるオンライン教育は、とても有益であると感じています。特に、感染症が広がるパンデミック中は有益です。

「Mobellコースは、日本の外にどんな課題、生活環境があるか、教えてくれる機会です」

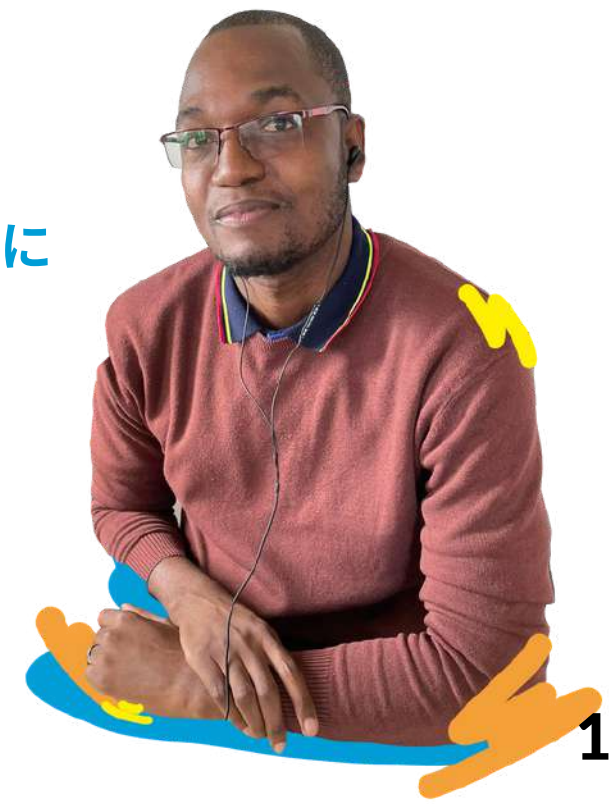


INSTRUCTOR 3: Lindani

Lindaniさんは、Information & Presentation（統計、リサーチ、プレゼンテーション）の授業を担当しています。Lindaniさんは、統計を正しく集めて分析することは、参加者の将来にとって重要な役割があると述べています。また、彼は参加者が最終プレゼンテーションなどで、すぐにこの授業で学んだことを生かせる点に驚いており、コースの参加者がさらに成長してくれることを、願っているそうです。

Lindaniさんにとっては、今回が初めてのオンライン授業となったそうです。授業の中で、彼自身も新しい経験ができ、それを日本人の皆さんと共有できることは、マラウイにとっても、日本にとっても大事な体験になるだろうと述べていらっしゃいます。

「Mobellコースを皆さんにお勧めしたい理由は、皆さんにとっての貴重な体験が、同時にマラウイにも貴重でかけがえのない体験になっているからです！」



A group of six students, three girls and three boys, are standing in a classroom. They are all wearing light blue school uniforms and white face masks. Each student is holding up a small, brown paper bag with a circular logo on it. The classroom has rows of wooden desks and chairs in the background. A large white banner with the text "School Level Impact" is overlaid on the image.

School Level Impact

協力学校の例: 静岡県、静岡雙葉高等学校

コース参加を頂いた生徒様、紹介頂いた先生との繋がりによって、Mobellコースは学校単位でのご協力を頂いております。
1校の具体例を、紹介させて頂ければと思います。

2021年1月、静岡雙葉高校の生徒様が、Mobellコースに参加してくださいました。
その結果、学校の授業にMobellの日本人スタッフをご招待頂き、マラウイの学校給食支援やチャリティ事業についての紹介をさせて頂きました。その結果、マラウイコーヒーの販売などを通して、2021年の終わりまでに、学校給食約40,000食分の支援を頂きました。

2022年以降も、Mobellの関連学校の音楽の授業のための支援、コーヒーイベントの企画によって、支援を継続して頂く予定になっています。



NPO法人せいぼの記事

3,300食分の給食寄付(2021年7月)

<https://www.seibojapan.or.jp/donation-from-shizuoka-futaba>

33,900食分の給食寄付 (2021年8月)

<https://www.seibojapan.or.jp/shizuoka-futaba-event-aug21>

33,000食分の給食寄付 (Dec 2021)

<https://www.seibojapan.or.jp/shizuoka-futaba-donation>

お問い合わせ先

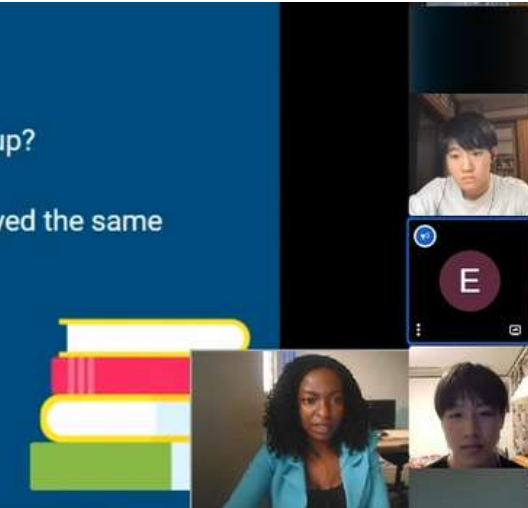
コースコーディネーター：
山田 真人（やまだ まこと）
makoto.yamada@mobell.co.jp
090-3426-0734

無料体験のお申込みも可能です。
www.mobell.com/jp



Team Roles

- Do you all play the same role or part in the group?
- What different roles do people play?
- Would the group be successful if everyone played the same role?



レッスンの種類

・1か月コース

チャリティ、社会的企業などの学び、プレゼンテーションを経て、Mobellより、インターン修了証をご提供します！

・週1回、1か月コース

チャリティ、社会的企業、マラウイ文化体験を実施し、週1回で5週間のコースです。マラウイのIT & Leadership学校より、修了証をご提供します。

ご参加の詳細は、コーディネーターまでご連絡下さい！

